

いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



11月号 発行 平成26年 11月28日



いわきの今を見に行く！ モニターバスツアー

10月18日(土)、25日(土)の2日間、首都圏の大学生を対象にした「いわきの今を見に行く！モニターバスツアー」を開催しました。これは、いわき地方の県出先機関であるいわき地方振興局、水産事務所、水産試験場及びいわき農林事務所の4機関が連携して実施したものです。

このツアーは、次代を担う若い世代の方々に震災・原発事故から3年半を経過した今の「いわき」の姿や取組を見て頂き、実際に現地で感じたことなどの意見を伺うことで、いわきの観光・農林水産業の再生に向けた今後の情報発信・風評払拭に役立てていくものです。

18日(土)が22名、25日(土)が30名の計52名の参加がありました。

ツアーの内容は、(有)とまとランドいわきではトマト栽培の安全・安心の取組について説明を受けた後、トマトの摘み取り体験。次のJ Aいわき市ントリーエレベーターでは米の全量全袋検査の見学。水産試験場では農林水産物のモニタリング状況の説明、いわき産の農産物を使ったお弁当の昼食。最後に津波被害から復興したアクアマリンふくしまの見学を実施しました。

参加者からは、「いわき産の農産物はとてもおいしい。」、「想像よりも厳しい検査を行っていて驚いた。」、「市場に出ているものは安全だとよくわかった。」などの感想が聞かれました。

ツアー実施後は、参加者から意見や提案をレポートとして提出してもらい、今後の情報発信・風評払拭に生かしていきます。



(とまとランドいわきにて)



(米の全量全袋検査の見学)

(企画部)



いわき農業普及推進懇談会

10月28日(火)、県いわき合同庁舎において、第1回「いわき農業普及推進懇談会」を開催しました。

本懇談会は、普及指導活動を効果的に実施するため、今年度前半の活動の取組経過について、関係機関や農業者代表から意見をいただくために開催しました。

懇談会では、認定農業者や女性農業者、青年農業者、集落営農組織等の担い手育成活動を始め、基盤整備地区の担い手確保対策、いわきの特色を生かした多様な米づくりと園芸産地復興計画に基づくいちご・ねぎ・日本なし等園芸品目の生産安定に向けての技術支援、更には関係機関との連携による鳥獣被害防止対策等の普及指導活動の取組について報告しました。

出席者からは、認定農業者に対する支援の充実やいわきの特色を生かした園芸品目導入、更に米価下落の現状において農業者が意欲を持てる生産条件の整備充実等、様々な意見をいただきました。

今後も関係機関の連携を強化し、震災からの復旧・復興を目指した営農対策と地域づくり・人づくりを重点とした活動を展開します。



(第1回いわき農業普及推進懇談会の様子)

(農業振興普及部)

「おいしい ふくしま いただきます！」 キャンペーン



10月10日（金）、いわき・ら・ら・ミュウにおいて、「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました。

県産農林水産物への風評を払拭するためには、消費者へ県産農林水産物の美味しさや安全性を再認識していただくことが必要です。このため、いわき農林事務所では今回、いわき産の新米をPRするため、今年度3回目となる消費拡大キャンペーンを実施しました。

農産物に関するアンケートに協力いただいた来館者200名に、いわき産の新米「天のつぶ」500gをプレゼントしたほか、「天のつぶ」のパネル展示や米の全量全袋検査のチラシを配布することで、いわき産米の美味しさや安全性をPRしました。収穫されたばかりの新米は、多くの方々に喜んでいただきました。

いわき・ら・ら・ミュウは、県外の方も大勢訪れるいわき市を代表する観光施設の1つです。アンケートでは、流通している県農林水産物の放射性物質検査を実施していることを知っているという回答された方が8割以上の結果となりました。このことから、安全性への感心の高さと県産農林水産物の放射性物質検査体制が県内外に浸透していることがわかりました。



(アンケート実施状況)

(企画部)



第17回福島県森林組合連合会 良質材展示会



10月17日（金）、いわき市遠野町にあるいわき木材流通センターにおいて、第17回福島県森林組合連合会良質材展示会が開催されました。

今回の展示会には100点の出品があり、審査の結果、育林技術や造材技術が高く評価された8点が入賞しました。

展示会当日は、約80名が来所し、優れた材の育林・造材技術を鑑賞しました。

最も優れた材として、いわき市勿来町の磐城造林(株)が出品したスギ材が林野庁長官賞を受賞しました。そのほかいわき市からは、緑川農林の緑川平隆氏が関東森林管理局長賞、阿部一郎氏が福島県木材協同組合連合会長賞、常磐林業(株)が福島県森林組合連合会長賞を受賞しました。

受賞者の方々には、10月25日（土）郡山市で開催された福島県林業祭において表彰が行われました。



(林野庁長官賞受賞材)



(それぞれ入賞した材)

(森林林業部)



JAいわき市いちごセミナー

10月21日（火）、JAいわき市いちご生産部会による平成26年度いちごセミナーがJAいわき市夏井支店2階研修室で開催されました。

今回は、生産者の健康管理を中心としたセミナーであり、いちご生産者及び関係機関25名の参加により、講演とパネル展示が行われました。

講演は、除染情報プラザアドバイザー庭野定次氏による「放射線・放射能とのつきあい方」と、いわき農林事務所職員による「農薬適正使用及び栽培履歴記帳」についての説明がありました。

参加者は放射性物質や農薬の適正使用について改めて理解を深めるとともに、農作業実施上の生産者自身の安全性確保対策や、消費者に対して安全・安心ないちごを提供するための注意項目等について熱心に聞き入っていました。



(いちごセミナーの様子)
(農業振興普及部)



赤井小5年生 昔の脱穀の大変さを実感

10月28日（火）、いわき市立赤井小学校5年生児童58名による、田んぼの学校「脱穀」が行われました。

田んぼの学校は、県の「ふくしまの農育推進事業」により、地域の未来を担う子どもたちが、『農業・農村地域の大切さ』や『環境の大切さ』、『食・命の大切さ』について理解し、豊かな感性を育むことなどを目的とした体験型学習の一環で、今回で第5回目となります。

今回の活動では、江戸時代から昭和初期に使われていた『千歯扱き』、明治時代に使われていた『足踏脱穀機』、脱穀機で脱穀したモミを風の力でワラと選別する『唐箕(とうみ)』など、昔ながらの器具を主に体験し、昭和50年代頃まで使われていた農業用機械『ハーベスター』と比較しました。

『足踏脱穀機』や『千歯扱き』は、思うように脱穀するのが難しい様子で、児童たちはいわき農林事務所職員の手を借りながら一生懸命脱穀しました。逆に、稲を機械に投入するだけで稲とワラを分別することができる『ハーベスター』のスピードにとっても驚いていました。

児童たちは、「時代の変化に伴って、どんどん楽に脱穀ができるようになったことが分かった。昔の人はこんなに大変な思いをして脱穀をしていたなんて、現代の人より体力があったと思う。」と感想を述べるなど、現代の農業機械の便利さに感心したようです。

また、地元協力農家の方からは、「皆1年間よく頑張ってくれた。よいお米ができた。」とお褒めのことばをいただきました。

次回は、11月25日（火）に収穫祭を行い、食育や米の全量全袋検査について学んだあと、いよいよ自分達で収穫したお米をいただきます！



(職員に手伝われ千歯扱きを体験する児童)



(足踏み脱穀機が楽しかったと人気でした)



(唐箕も体験しました)

(農村整備部)



第65回福島県学校関係 緑化コンクール

10月8日（木）、県及び県教育委員会が主催する第65回福島県学校関係緑化コンクールが開催され、いわき市立永井中学校が、学校環境緑化の部（中学校の部）で、知事賞及び福島民報社長賞を受賞しました。

学校関係緑化コンクールは、生徒等の緑化活動及び緑化教育の一層の推進を図ることを目的に行われています。

永井中学校の緑化活動の取組は歴史が古く、今回の知事賞受賞は、昨年度に引き続いての受賞となりました。

同校は、平成26年度末をもって三和中学校に再編される予定のため、最後の受賞となりましたが、今後も緑化活動が継続されることを期待します。



（生徒がデザインした校舎入口の花壇）
（森林林業部）



（有）すずき農園出品なめこ 林野庁賞受賞

10月24日（金）、県林業研究センターで行われた平成26年度福島県きのこ品評会で、（有）すずき農園出品の菌床なめこが、なめこ・ひらたけの部において林野庁長官賞を受賞しました。

きのこ品評会は、きのこ生産技術の改善による品質の向上と需要拡大の促進などを目的に行われています。

震災後、原発事故の影響で中断されていたものの、きのこの放射性物質の検査体制が整い、資材の安全性も確認されたため、4年ぶりの開催となりました。

受賞したなめこは、25日（土）、26日（日）に行われた平成26年度福島県きのこ復興まつりで展示・販売されました。



（（有）すずき農園出品なめこ）
（森林林業部）



「鍋グランプリ（築地）」における 福島県産漁獲物のPR

11月2日（日）、東京都中央区にある築地市場で開催された「鍋グランプリ」において、いわき仲買組合が、試験操業で漁獲されたヒラツメガニ等を使ったカニ汁を出品しました。

本イベントは「築地市場まつり」の一環として初開催されたもので、参加のきっかけは築地市場からいわき市へ打診があり、いわき市やいわき市中央卸売市場がいわき仲買組合を支援する形で参加しました（当日の参加者は総勢20名）。

カニ汁は大人気で、行列が隣のブースの先まで伸びるほど長蛇の列ができました（写真）。来客からは「応援しています。」「どこで買えるの。」等の声が聞かれました。9時開始で、550杯のカニ汁が2時間弱の間に完売しました（参加16団体中3番目の早さ）。

残念なことに、割り箸を投票箱ではなく近くのゴミ箱に入れた人が多かったためか、受賞は逃しました（優勝：北茨城のアンコウ鍋）が、「小名浜魚市場・いわき市中央卸売市場・行政が協力したことに価値がある。」とのコメントが聞かれました。



（カニ汁に並ぶ行列の様子）
（水産事務所）



サイエンスカフェ 「福島の漁業 再開に向けて」

11月2日（日）、東京海洋大学の学園祭「海鷹祭」に合わせて、福島の実プロジェクト2014「福島の漁業 再開に向けての歩み」と題したサイエンスカフェが開催され、大学関係者や来場した一般の方々、福島県の漁業関係者、水産試験場、水産事務所職員による意見交換が行われました。

東京海洋大学は、震災直後から放射能関連調査をはじめ、漁業復興に向けて様々な支援をしており、本イベントもその一つです。昨年までは、魚介類への放射能の影響についての研究紹介が中心でしたが、今年は、試験操業が拡大していることから、漁業復興に向けた取組が中心の内容となりました。意見交換では、風評対策など学者や消費者などそれぞれの目線からアドバイスを頂きました。

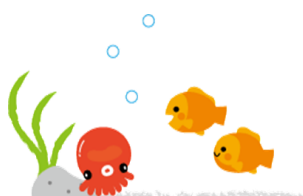
なお、学園祭には福島県漁業協同組合連合会や各漁業協同組合から大勢の漁業関係者が参加し、試験操業で漁獲された魚介類のPRや販売を行い大変好評でした。



（サイエンスカフェ会場の様子）



（ホッキ酒蒸しの試食に長蛇の列）
（水産事務所）



いわき魚まつり

11月9日（日）、小名浜魚市場において「いわき魚まつり」が開催されました。多くの消費者に試験操業で漁獲された魚介類を食べしてほしいとの思いから、小名浜機船底曳網漁業協同組合が中心となって企画し、福島県漁業協同組合連合会、いわき市漁業協同組合、いわき仲買組合、アクアマリンふくしま、いわき海星高等学校、いわき市、県等多くの団体が協力する形で実施されました。

漁業協同組合はメヒカリの唐揚げやサンマのつみれ汁を来場者にふるまい、いわき仲買組合は試験操業で漁獲された魚介類を格安で販売しました。販売コーナーは、開場の9時45分前には長蛇の列となり、販売開始から1時間程度で完売するほどの盛況ぶりでした。

来場者は約5千人と、手作りのイベントとしては大成功でした。地元をはじめ、多くの方がいわきの魚を待ち望んでいたことが伺えます。今後の試験操業の拡大に弾みがついた催しでした。



（水産試験場のパネル展示）



（販売コーナー）

（水産事務所）





ふくしま食育実践サポーター 派遣要請の受付開始

県内の子ども達の健やかな成長を期すため、県では、食育活動を意欲的に実践していただける「ふくしま食育実践サポーター」の募集していましたが、これまでに登録のあった方々を「サポーター名簿」（9月30日現在）として取りまとめ公開するとともに、学校や地域団体からのサポーター派遣要請の受付を開始しました。

今後、サポーター名簿に掲載された食育活動内容を様々な機会に紹介し、ふくしま食育実践サポーター制度が広く活用されることが期待されます。

(企画部)



いわき地方の農林畜産物 モニタリング検査結果

福島県が行った、いわき地方の10月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング検査結果をお知らせします。

(表1) 農林畜産物のセシウム検査結果(10月末現在)

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数			検体の全てが検出された品目と検体数		計
	検出限界値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超過の検体	基準値内で検出された検体	基準値超過の検体	
23品目	4品目(※1)			1品目(※2)		28品目
52検体	18検体	6検体	0検体	1検体	0検体	77検体

※1：ユズ、サツマイモ、クリ、牛肉
※2：アケビ

検査した28品目77検体のうち、23品目52検体において、放射性セシウムは検出限界値以下でした。内訳は(表2)のとおりです。

(表2) 放射性セシウムが1点も検出されなかった品目と検体数

レタス 2、ピーマン 1、パプリカ 1、葉ダイコン 1、ブロッコリー 3、カリフラワー 2、ハヤトウリ 2、ネギ 3、葉ネギ(施設) 1、トマト(施設) 1、ミニトマト(施設) 1、マコモタケ 1、キウイフルーツ 1、カキ 6、ダイコン 2、サトイモ 2、ゴボウ 2、菌床なめこ(施設) 2、菌床しいたけ(施設) 6、原木しいたけ 3、小豆 4、豚肉 1、原乳 4
--

なお、ユズ、アケビ、サツマイモ、クリ、牛肉については、それぞれ1~2検体に100ベクレル/kg以下の放射性セシウムが検出されました。内訳は(表3)のとおりです。

(表3) 基準値内で検出された品目と検体数

	ユズ	アケビ	サツマイモ	クリ	牛肉	
検体数(うち基準値内)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	8 (8)	9 (9)	
内訳	100ベクレル以下(最大値:ベクレル/kg)	2 (27.0)	1 (23.0)	1 (4.7)	2 (13.0)	1 (27.0)
	検出限界値以下	2	0	2	6	8

10月31日(金)現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されている品目は、(表4)のとおりです。

(表4) 出荷制限及び出荷自粛品目(10月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限(9品目)	野菜・根菜・芋類	—
	果物	ユズ
	穀類	クリ
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、こしあぶら、たらめ(野生のものに限る)
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
畜産物	—	—
出荷自粛(1品目)	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

※「クリ」については、11月17日(月)付で出荷制限が解除されました。

また、昨年に引き続き平成26年産の米についても全量全袋検査を実施しており、10月末までの検査点数424,672点のうち、99.98%の424,583点が測定機器の測定下限値未満、89点が基準値内で検出が確認されましたが、基準値を超過したものはありません。

(表5) 玄米(平成26年産)検査状況(10月末現在)

測定値区分(単位:ベクレル/kg)	測定下限値未満(<25)	25~50	51~75	76~100	100以上	計
検査点数(点)	424,583	89	0	0	—	424,672
割合(%)	99.98	0.02	0.00	0.00	—	100.00

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、平成26年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、ご確認ください。

(企画部)

いわき花き鉢物研究会員が生産している季節の鉢花

いわき花き鉢物研究会員が生産している、様々な季節の鉢花を紹介します。

◇スイートレモン◇
(ミカン科)

インド東部が原産です。
四季咲き性の性質を持っているので、温度が高ければ1年中結実します。
写真は食用品種を鉢物に仕立てたものです。グリーンの実がさわやかさを醸し出しますので、インテリアにも適しています。
レモンの枝には、沢山の棘がありますので、取り扱いには注意して下さい。



◇シクラメン◇
(サクラソウ科)

ヨーロッパから北アフリカおよび中近東の地中海沿岸地域に自生しています。
原種の開花期は早春ですが、日本では、冬の花として楽しまれています。
大鉢のシクラメンは、播種から出荷まで1年以上の期間を要します。また、花全体のバランスを整えるため、葉を中心から外側に広げる「葉組」という作業を1鉢1鉢手作業で何度も行うなど、生産には大変手間がかかります。
凍みない程度の涼しいところに置けば、長期間観賞することができます。



(農業振興普及部)

いわきの旬な情報をお知らせします！

いわきの特産
『ネギ』を
ご紹介します！

寒さが増して
ねぎがおいしい季節に
なりました！

いわきのねぎの歴史

いわき地方でねぎの栽培が始まったのは、100年以上前の明治時代の初め頃からと言われています。現在いわき地方では年間を通して栽培しており、特に美味しい時期である秋から冬にかけて収穫するねぎを多く栽培しています。

体を温めて、風邪予防に！

ねぎは成長の過程で何度も土をかぶせながら育てます。この「土寄せ」という作業を行うことにより、太陽に当たらずに土の中で伸びた部分が柔らかく真っ白に成長します。

ねぎ特有の香りの正体は、アリシン（硫化アリル）という成分です。アリシンには、血行を良くして体を温め、のどの痛みやせきを鎮める鎮痛作用があるので、風邪予防にも効果があります。

地元のスーパーや直売所でお買い求めいただき、これからの季節にぴったりの鍋や温かい食べ物で、ぜひ美味しい「いわきねぎ」を食べてみてはいかがでしょうか。

いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1) モニタリング情報検索
 - (2) 出荷制限等一覧表



「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース 検索